

ふじのみや探検

第8号 武田信玄のひみつ



発行：富士宮市立中央図書館 〒418-0067 静岡県富士宮市宮町13-1 TEL:0544-26-5062 FAX:0544-26-1284

ひみつ1 富士宮と信玄は、何か関係があるの？（しだれざくら）

甲斐（山梨県）の武田信玄は、海を求めて今川氏真の駿河（静岡県）に攻めてきました。戦いに勝った信玄は、駿河を手に入れました。そのとき記念として、富士宮浅間大社にしだれざくらを植えました。今から440年前のお話です。

武田信玄は、永禄12年（1569）富士氏（今川氏の家臣）の守る大宮城を攻めました。富士氏も鉄砲を使ったりして、ゆうかんに戦いましたが、大軍をひきいる信玄にはかないません。駿河で最後まで信玄に戦いを挑んだ富士氏も、ついに大宮城を信玄に明け渡しました。武田氏はこれから13年間、駿河を支配します。織田信長が、京都を手に入れたのもこの頃です。

信玄は、ふだんは、甲斐のつつじがさき館に住んでいます。そうすると、駿河に何か事件があったとき、すぐに情報が伝わりません。どうしたらいいでしょう？もちろん、けいたいもありません。信玄は、のろしを考えました。富士川ぞいにのろし台や砦をつくり、のろしの色やあげ方で何が起きたかを知らせます。駿府城とつつじがさき館の間は、100kmぐらいはなれていますが、2時間で情報が伝わります。こうして信玄は、安心して甲斐で政治を行いました。のろし台は、駿州往還（今の52号線）に沿ってつくられました。右の図がのろし台の地図です。



浅間大社のしだれざくらは、2代目ですがとても大きく育っています。信玄が植えたと思うと歴史の長さを感じますね。浅間大社に行ったら、ぜひ見てください。

◇ことばの説明

- 鉄砲・・・鉄砲が大宮城の戦いで使われたのは、鉄砲伝来から、26年後です。
- 駿州往還・・・山梨県と静岡県を結ぶ3つの道の1つで、一番西にあります。

ひみつ2

ふもと 麓に金山があったの？

ありました。車で、国道139号線を北に向かうと、グリーンパークの表示があります。そこを左に曲がり、さらにおくに入ると麓部落に出ます。正面に見えるのが毛無山地です。毛無山地からは、とてもたくさん金が出ました。戦国時代から竹川氏（今川氏の家臣）が中心になり、金をほっていました。当時は、麓千軒といわれるほど、たくさんの方が住んでいました。竹川氏は、それらの人を使って、毛無山地にトンネルをほり、金鉱石を掘り出していました。

信玄が、駿河を治めるようになると、麓の金山も武田氏のものになりました。信玄はこれを甲州金に作り変え、家臣のほうびや支配していない場所の城主などに贈り、味方にしていきました。信玄はこのほかにも黒川金山など多くの金山を持ち、“甲州金48万両”といわれるほど大量の金を持つようになりました。騎馬軍団の強さと大量の金、まさに“鬼に金棒”ですね。

竹川氏は、今も麓に住んでいて、部落を守っています。

◇ことばの説明

- 金鉱石・・・中に金が含まれている石
- 甲州金・・・日本で初めてつくられた金貨



竹川家

ひみつ3

信玄は、どんなことをやったの？

信玄は、室町時代の終わり頃、甲斐に生まれます。信玄が、父親を駿河（今川氏）に追放して、甲斐の国王になったのは、21才のときです。

信玄は、領土を広げようとして、信濃（長野県）に攻め込みます。諏訪氏、高遠氏、村上氏と攻めほろぼして信濃を南から北へ平定して行きます。領土を取られた信濃の武士たちは、越後（新潟県）の上杉謙信に助けを求めます。信玄と謙信は、川中島で5回にわたり戦いますが、決着はつきません。2人の武力が同じくらいだったからです。さらに、信玄は、駿河の今川氏・相模（神奈川県）の北条氏と親せきになり、お互いに攻めないことをちかい合い三国同盟を結びます。

信玄は、今川義元が死ぬと、駿河、遠江を手に入れ、京都をめざします。そして、京都を押さえている信長、家康の連合軍と戦います。戦いには、勝っていましたが、病のため、53才で亡くなります。さぞ、心残りだったことでしょう。

信玄年表

年	できごと
1521年 たいえい (大永元年)	武田信玄、積翠寺でうまれる。
1541年 てんぶん (天文10年)	父、信虎を駿河に追放して、武田家をつぐ。
1547年 (天文16年)	甲州法度（武田家の法律）を決める。
1561年 えいろく (永禄4年)	上杉謙信と川中島で戦う。弟信繁、山本勘助戦死する。（第4回）
1568年 (永禄11年)	駿河に攻め入って、今川氏真を掛川城に追う。
1569年 (永禄12年)	大宮城を開城させる。
1572年 げんき (元龜3年)	三方が原の合戦で徳川家康を破る。
1573年 てんしょう (天正元年)	信州駒場で病気のため死亡する。

ひみつ4

やまもとかんすけ 山本勘助は、富士宮の人なの！？

そうです。富士宮市山本に生まれました。吉野貞幸さだゆきと安の三男として育ちました。いまでも、吉野家には、山本勘助たんじょう誕生の碑ひがたっています。

勘助は、26才のとき武者修行むしやしゆぎようのたびに出ます。10年間、関東・中国・四国・九州をまわり、お城の作り方や戦いのやり方などを勉強し、信玄につかえます。信玄に認められた勘助は、信濃に攻め入って手柄てがらをたてたり、高遠城たかとうじょうや小諸城こもろじょうをつくったりして、その才能をはっきします。

永禄4年（1561）信玄と謙信は、川中島で戦います。信玄は、2万の兵を二手に分け謙信の1万3000の兵をはさみうちにします。この作戦は、「キツキ戦法」といい、勘助が考えたものです。しかし、これを見抜いた謙信は、夜のうちに移動し、朝もやの中、信玄の本陣におそいかかります。謙信の刀にあやうく切れそうになった信玄は、軍配ぐんばいでようやくこれをかわします。勘助は自分の作戦の失敗に責任を感じ、敵陣に攻め入って討ち死にします。そのあと、信玄の別働隊がようやく川中島に到着します。今度は逆に謙信をはさみうちにします。仕方なく謙信は兵をまとめて、越後に帰りました。

長く、勘助は実在の人物ではないと思われてきましたが、最近になって、勘助について書かれた古文書が発見され、その存在が証明されました。歴史は、いつも動いていますね。

◇ことばの説明

○軍配・・・戦いのときに 大将が自分の軍を指揮するときを使う。板に、柄えをつけたもの



山本勘助像
山梨県立博物館所蔵

まめ知識

あかいとおどしごまいどうぐそく 紅糸威五枚胴具足ってなに？

武田勝頼かつより（信玄のむすこ）が、浅間大社ほんのうに奉納したよろいてきです。よろいは、戦いのとき、敵の攻撃から身を守るものです。材料は、鉄や皮などの小さい板から出来ています。これをひもでつなぎ伸びちぢみするようになっています。重さは、25kgぐらいいります。さらに、頭にかぶとをかぶったり、刀や槍やりを持ったりすると・・・とても重くて、戦うのも大変だったでしょうね。紅糸威あかいとおどしというのは、鉄の板を赤い糸でつなぐことです。五枚胴ごまいどうというのは、お腹のまわりを5枚の鉄板でつなぎ、守ることで、こうすれば、大切な胸やお腹を鉄砲や刀で、傷つけられませんね。

それともうひとつ大切なこと。よろいは、目で見てかっこいいということも大切です。大將は、めだつかっこうで、味方を勇気づけないといけませんからね。勝頼の奉納したよろいは、静岡県の指定文化財になっています。

そのほかにも武田氏が浅間大社に奉納したものはたくさんあります。たとえば、信玄が、浅間大社に北条氏を攻めほろぼすために書いた願い文もそうです。

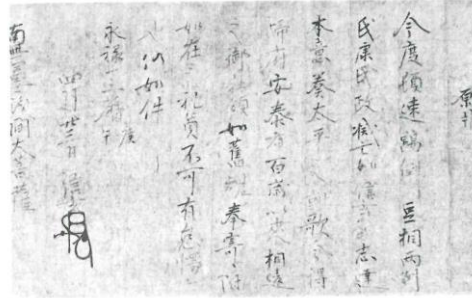
（武田信玄願状）元亀元年（1570）4月、武田信玄たけだしんげんねがいじょうと北条氏康げんきは、沼津ほうじょううじやす・韮山にらやまをめぐる戦ってしました。つつじがさき館しゅつじんを出陣した信玄は、浅間大社にたちより「北条氏をほろぼしたときは、浅間大社に領地を寄付します。」と、自分の字でいねいに書きました。信玄の信心深さがわかる、お話ですね。



紅糸威五枚胴具足
「富士宮の文化財」より



やまもとかんすけたんじょう ひ
山本勘助誕生の碑



武田信玄願状
「富士宮の文化財」より



こうしゅうきん
甲州金
(甲斐黄金村・湯之奥金山博物館ホームページより)



信玄お手植えのしだれ桜

◇『第8号・武田信玄のひみつ』は、次の資料をもとに作りました。

- 1 『富士の研究Ⅱ 浅間神社の歴史』 浅間神社社務所 1929
- 2 『戦国氏研究—山本菅助宛手武田晴信書状の検討—』 平山優／戦国氏研究会 2010
- 3 『武田氏研究—武田氏の駿河・遠江支配について—』 小川隆司／武田氏研究会 2000
- 4 『地方史静岡創刊号—武田氏の領国形成—』 若林淳之／県立中央図書館 1971
- 5 『戦国期静岡の研究—武田信玄の駿河侵攻と今川氏真—』 小和田哲男／清文堂 2001
- 6 『ふるさと再発見—武田信玄と山本勘介—』 佐野十三郎／岳南朝日 1988
- 7 『目で見る芝川町の歴史』 芦沢幹雄／緑星社 1976
- 8 『法事』 竹川昭司／竹川本家 1970
- 9 『駿河の武田氏』 藤枝市郷土博物館／共立印刷 2000
- 10 『武田信玄と富士宮』 若林淳之／緑星社 1988

